

## 座長集約

昭和大学藤が丘病院 高橋 俊行

企画 2 において、「泌尿器系の MRI 画像診断について（腎、膀胱を中心に）」というお題で昭和大学藤が丘病院 竹山 信之先生に講義をいただきました。内容は診断に必要な読影技術と撮像方法でした。

初めに、膀胱癌からの講義で特に T2 強調画像による膀胱筋層浸潤の評価を行う点から T1 強調画像では膀胱周囲の脂肪層への浸潤を評価する等の基本的なお話をいただきました。

特に膀胱壁の浸潤度に表在性と浸潤性とに分類できるので、2 方向以上の撮像方向が重要なお話でした。特に竹内先生達の RSNA の論文紹介では、拡散強調画像による形態によるステージングの分類の論文をご紹介くださり、GD 造影との比較も含めて講演いただきました。その中で拡散強調画像の形態が、膀胱癌のグレード分類を反映しているという論文を昭和大学藤が丘病院の症例を用いて検証いただき、そのお話は非常に参考になりました。

腎臓に関しては充実性腎腫瘍の画像診断と嚢胞性腎腫瘍の画像診断を順に講演いただきました。腎癌では偽皮膜や血流評価の重要性、腎血管筋脂肪腫においては脂肪組織の同定が重要なお話、オンコサイトーマと嫌色素性腎癌は画像所見では鑑別しにくいとお話でした。特に形態診断での楔状（ピラミッド状）の形態所見は高い確率で良性であるとお話は非常にわかりやすくご説明いただきました。嚢胞性腎腫瘍に関しては、内部性状の評価に MRI は有効であり、特に造影効果の有無は診断に有効でわかりにくい場合にはサブトラクションも考慮すると良いとお話でした。

講演終了後も非常に講演がすばらしかったとの、声もいただき非常に好評であったと感じております。先生お忙しい中ご講演ありがとうございました。

（文責）高橋 俊行